

# 地域における老年者の Quality of Life(QOL)とライフスタイル

## Quality of Life and Life Style in the Community Elderly Residents

水野 敏子・瀧 断子・會田 信子・吉尾千世子・諏訪さゆり

### 要 旨

本調査は基本健診受診者を対象にQOLに関連する要因を分析し、その中で特に地域活動へ参加していない老年者の特徴について明らかにすることを目的に調査を行った。その結果、生活満足度(VAS)が100mm線上の平均67.5mmであり、全体に満足度が高かった。満足度(LSIK)とは有意な相関があり $r=0.43$ であった。満足度に影響する要因は健康自己評価、経済、人との交流、地域活動への参加等の他に、孫の存在や孫の世話の有無が満足度に影響していたという特徴がみられた。さらに地域活動のなかで、町内会・婦人会や老人クラブ、生産者に関する会等の地域に根付いた活動よりも、講習会への参加や趣味の集まりなど、本人の意思で選択できる活動に参加するものの満足度が高かった。

地域活動不参加者については配偶者があり、睡眠時間の短い家族内の交流の密度が低い、経済的余裕のない老年者のQOLが低下していた。これらのことから、地域活動不参加者の家族内交流の促進が課題であることが明らかになった。

### I. 緒 言

老化の過程にうまく適応し、幸福な老後を迎えることができることを、サクセフルエイジングと言い、より健康的、活動的な老年者の生活支援への方向性を示す様になった。サクセフルエイジングの研究では、老年者のQuality of Life(以下QOLと約す)が重要な指標とされている<sup>1) 3)</sup>。疾病や身体機能などの客観的QOLだけに限らず、主観的幸福感や生活満足度など主観的なQOLについても、健康指標の一つとして研究の重要性が指摘されてきた。

生活満足度には健康・家族・趣味・友人や地域

社会での交流・経済的余裕・社会参加等が影響するという多くの調査結果から、社会活動が注目されるようになった<sup>3) 4)</sup>。そして保健福祉分野において、老年者のQOLの向上をめざし、老人クラブやその他の社会参加を進めるプログラムが推進されてきた。しかし、社会的活動を望まない人がいることや、さらには高齢になるにつれADLの低下により、自宅に籠もりがちにならざるを得ない状況の人もある。しかし、社会的活動が困難な老年者の中にもQOLの高い人もいれば、低い人もいる。家に閉じ籠もりがちな老年者について未だ有効な支援方法や、援助に繋がるQOLの研究は殆どみられない。そこで社会的活動に積極的な老年者と、閉じこもりがちな老年者のQOLの特徴について比較調査し、家に閉じこもりがちな老年者に対する支援のあり方を検討することを最終的な目標とした。

そのうち今回は基本健診受診者を対象にQOLに関連する要因を明らかにし、さらに地域活動不参加者について、QOLの高い老年者と低い老年者とを比較しQOLの特徴を明らかにする。

### II. 研究方法

#### 1. 対象

大東町の平成11年度基本健康診査受診者のうち60歳以上の老年者1299人。そのうちVISUAL ANALOGUE SCALEによる生活全体についての満足度の質問に記入のあったもの、795人について分析した。

#### 2. 方法

大東町が発送する基本健康診査の案内に調査用紙を同封し郵送、健診時に回収した。調査期間は平成11年7月中旬から11月中旬までである。

#### 3. 調査内容

老年者の属性、家庭内の介護者や入院の有無、

健康状態、生活習慣、地域活動、コミュニケーション能力、交流の程度、趣味、経済状態、老研式活動指標 (TMIG)<sup>6)</sup> である。老研式活動指標は0～13点に配点されており13点が最も活動性が高いことを示す。

QOLの指標としてVISUAL ANALOGUE SCALEによる生活満足度を用いた。そしてその理由についての自由記載を求めた。生活満足度尺度による満足度は測定される概念があらかじめ規定されていることや、老年者が必ずしも回答しやすい内容とは限らないこと<sup>5)</sup> が示唆されているため、対象者自身の考える満足度について、特定の要素ではなく「生活全体」にどの程度満足しているかを測定するためにVISUAL ANALOGUE SCALE (以後VASと表現する)を用いた。VASによる生活満足度は0～100mmの線上に示され得点化される。100が最も満足度が高いことを示している。そして同時に生活満足度尺度k (life Satisfaction Index K 以後LSIKと表現する。)<sup>7)</sup>を用い両者を比較検討した。

#### 4. 分析方法

本調査ではVASによる生活満足度に影響している因子を分析するため、各因子についてVAS得点の平均値を比較した。その後、地域活動不参加者について、VAS得点75点以上と50点以下の2群について、各因子と $\chi^2$ 検定を行った。今回は有意確立を $p \leq 0.1$ 以下で求めた。

さらに自由記載による満足度の理由について内容を分析し、生活満足に関する要素を検討した。なお解析には統計パッケージSPSSVr8を用いた。

### III. 結果

#### 1. 対象者の特性

##### 1) 基本的属性 (表1)

最初に対象者の基本的属性について分析を行った。性別は女性が多く54.0%、男性45.7%であった。年齢は60歳代が最も多く55.8%、70歳代、38.5%であり、80歳以上が5.7%と著しく少なかった。配偶者のあるものが72.3%あった。息子との同居が55.1%であり、孫と同居しているものが47.0%と約半数であり3世代家族が半数近いこ

とが示されていた。

表1 対象者の特性

	N=795	
	人	%
性別		
男性	363	45.7
女性	429	54.0
年齢		
60歳代	444	55.8
70歳代	306	38.5
80歳以上	45	5.7
配偶者の有無		
あり	575	72.3
なし	191	24.0
孫との同居の有無		
あり	374	47.0
なし	392	49.3
家族に介護・入院の必要な人の有無		
介護の必要な人がいる	35	4.4
入院中の人がある	8	1.0
いない	752	94.6
健康である		
はい	335	42.1
いいえ	428	53.8
活動指標(TMIG)		
11点以下	290	36.5
12点以上	484	60.9
定期的な運動習慣		
はい	257	32.3
いいえ	417	52.5
睡眠時間		
6時間以下	162	20.4
7～8時間	576	72.5
9時間以上	42	5.3
治療中の病気や症状の有無		
あり	292	36.7
なし	471	59.2
家庭内での役割(複数回答)		
家事	327	49.9
畑仕事	416	63.5
庭仕事	452	69.1
孫の世話	151	23.1
その他	5	0.8
役割なし	9	1.4
友人や近所の人とよく話しをする		
よくする	416	52.3
普通	358	45.0
しない	14	1.8
家族とよく話しをする		
よくする	336	42.3
普通	424	53.3
しない	22	2.8
夕食を食べる時の人数		
1人	54	6.8
2人	217	27.3
3～4人	217	27.3
5人以上	242	30.4
趣味の有無		
あり	529	66.5
なし	176	22.1
若い時の地域の集まりへの参加		
集まりへの参加が好きだ	613	77.1
一人の方が好きだ	142	17.9
経済状態		
苦勞している	104	13.1
どちらともいえない	447	56.2
苦勞していない	233	29.3

注)未記入者の記載は省略した。%の算出に関しては795を母数とした。

## 2) 健康について

健康への自己評価について質問した結果、健康であると回答したものは42.1%であり、健康でないと回答したものが53.8%と約半数であった。会話が困難なものは少し困難を含めて39人、5.7%と少なかった。聴力に問題のあるものは少し聞こえ難いもの17.6%、非常に困難、3人であり少なかった。活動の程度については老研式活動指標(TMIG)の平均得点が11.6±2.0点であり、11点以下が36.5%、12点以上60.9%あり活動能力が高かった。

## 3) 家族内での役割

家事を行っていたもの49.9%、畑仕事63.5%、庭仕事69.1%、孫の世話23.1%などであり、役割のないものは1.4%と非常に少なかった。

## 4) 交流の程度

日頃の交流について質問した結果、友人や近所の人と話をしたり、つきあいがよくあるものが52.3%であった。家族とよく話すは42.3%、普通53.3%であり、よく話すと普通を合わせると95.6%であり家族間交流は豊かなものが多かった。夕食をともにする人数は5人が最も多く30.4%、1人6.8%であった。趣味ありは66.5%を占めていた。若い時には地域の集まりへの参加を好んでいたか、一人を好んでいたかを質問した結果、若い頃より地域の集まりに参加していたものが多かった。経済状態は苦勞している13.1%、どちらとも言えない56.2%、苦勞していない29.3%であった。

## 5) 地域活動

社会参加の一つである地域での活動について複数回答を求めた結果、町内会・婦人会が

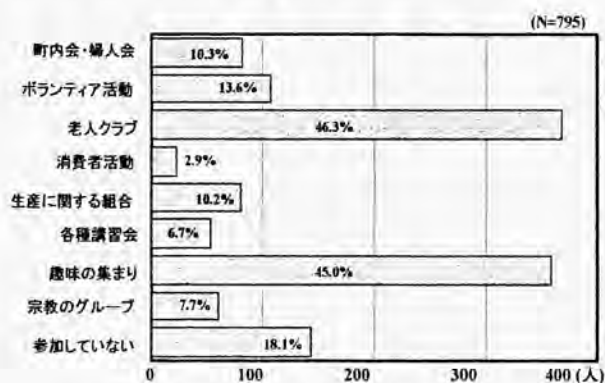


図1 地域活動への参加 (複数回答)

10.3%、ボランティア活動13.6%、老人クラブ46.3%、生産に関する活動10.2%、各種講習会6.7%、趣味の集まり45.5%、宗教のグループ7.7%であり、何らかの地域活動の一つ以上参加しているものが81.9%、全く参加していないものが18.1%と参加しているものが非常に多かった。

## 6) 生活満足度

生活満足度VASは平均得点が67.5±21.6点であった。図2に示すように、中央の50点に印を付けるものが最も多く16.2%、次いで80点11.9%、85点10.8%の順であり、得点の高い方向へ多く分布していた。LSIKの平均得点は6.2±1.6点であった。生活満足度LSIKとVASとの相関係数は0.43であり有意な相関が得られた (p=0.000)。

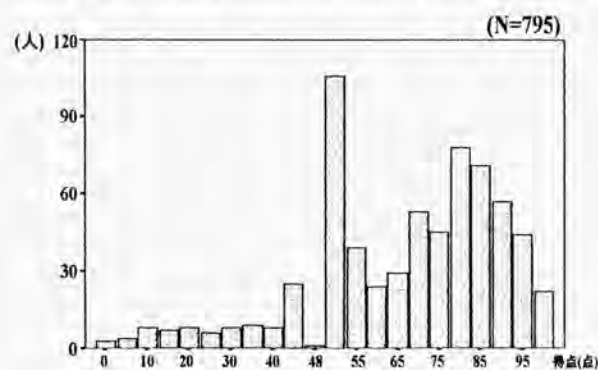


図2 生活満足度 (VAS)

## 2. 生活満足度 (VAS) とライフスタイル

### 1) 家族と生活状況 (表2)

性別や配偶者の有無による平均VAS得点の差はなかったが、孫と同居するものに満足度得点が高い傾向があった (p=0.058)。健康であるものが

表2 生活満足度 (VAS) と家族・生活状況

		N=795	
	人	平均値	標準偏差
性別	男	363	66.4
	女	429	67.6
年齢	60歳代	444	66.1
	70歳代	306	68.1
	80歳代	45	68.3
配偶者の有無	あり	597	67.0
	なし	170	67.0
孫との同居の有無	あり	317	68.8
	なし	450	65.8
健康である	はい	335	69.2
	いいえ	428	65.2
活動指標(TMIG)	11点以下	290	64.7
	12点以上	484	68.4
定期的な運動習慣	はい	257	69.2
	いいえ	417	66.3
睡眠時間	6時間以下	162	60.6
	7~8時間	576	69.1
	9時間以上	42	66.5

\*p<0.05

健康でないものに比べ得点が高かった(p=0.012)。睡眠時間が少ない6時間のものが、7~8時間のものに比べ満足度得点が高かった (p = 0.001)。

## 2) 地域活動 (表3)

一つ以上地域活動に参加しているものは、参加していないものに比べ満足度得点が高かった (p = 0.068)。地域活動の中でも町内会・婦人会や老人クラブ、生産に関する組合などでは満足度得点に差がなく、各種講習会への参加や趣味の集まりなどへ参加するものが参加しないものに比べ満足度得点が高かった (p = 0.000, p = 0.080)。

表3 生活満足度 (VAS) と地域活動

		N=795			
		人	平均値	標準偏差	
地域活動への参加(1つ以上)	あり	651.00	67.6	21.6	p=0.068
	なし	144	64.0	22.3	
町内会・婦人会	はい	82	67.5	20.1	
	いいえ	713	66.9	21.9	
ボランティア活動	はい	108	69.2	22.1	
	いいえ	687	66.6	21.7	
老人クラブ	はい	368	68.0	21.4	
	いいえ	427	66.1	22.0	
消費者活動	はい	23	72.0	18.8	
	いいえ	772	66.8	21.8	
生産に関する組合	はい	81	70.5	20.1	
	いいえ	714	66.6	21.9	
各種講習会	はい	53	77.2	18.8	p=0.000
	いいえ	742	66.3	21.8	
趣味の集まり	はい	358	68.5	22.3	p=0.08
	いいえ	437	65.8	21.2	
宗教のグループ	はい	61	65.5	24.2	
	いいえ	734	67.1	21.5	

## 3) 会話・聴力 (表4)

会話に問題なしに比べ、少し困難のあるものの満足度得点が低かった (p = 0.004)。聴力には差がなかった。

表4 生活満足度 (VAS) と会話・聴力の程度

		N=795			
		人	平均値	標準偏差	
人と話しをするのに困難がある	問題なし	726	67.39	21.48	p=0.004
	少し困難	50	62.80	21.81	
	非常に困難	4	35.00	17.80	
聴力	問題なし	629	67.72	21.53	
	少し困難	147	64.22	21.81	
	非常に困難	4	65.00	19.15	

\*p<0.05

## 4) 家庭内での役割 (表5)

家事や畑仕事、家族の相談役の有無による満足度には差がなかった。庭仕事や孫の世話の役割を持つものは持たないものより満足度得点が高かった (p = 0.03, p = 0.079)。

表5 生活満足度 (VAS) と家庭内での役割

		N=795			
		人	平均値	標準偏差	
家事	あり	399	67.2	22.2	
	なし	384	67.3	20.8	
畑仕事	あり	501	67.5	21.5	
	なし	282	66.8	21.6	
庭仕事	あり	546	68.4	21.0	p=0.025
	なし	237	64.5	22.5	
家族の相談役	あり	295	68.6	21.3	p=0.079
	なし	488	66.4	21.6	
孫の世話	あり	173	69.8	21.5	
	なし	610	66.5	21.5	
役割	なし	11	74.1	20.0	
	あり	772	67.1	21.5	

## 5) 交流・経済状況 (表6)

友人や近所の人とよく話をするものは、満足度が普通やなしのものに比べ高かった (p = 0.012)。家族とよく話をするものは普通、しないものより得点が高かった (p = 0.004)。趣味のあるものがないものに比べ得点が高く (p = 0.046)、若いときに地域の集まりに参加していた人は、一人を好んでいたものに比べ得点が高かった (p = 0.004)。

経済的には苦勞していないものが苦勞している、どちらともいえないものに比べ得点が高かった (p = 0.000)。

表6 生活満足度 (VAS) と交流・経済状況

		N=785			
		人	平均値	標準偏差	
友人や近所の人とよく話しをする	よくする	416	68.9	21.8	p=0.012
	普通	358	64.9	21.4	
	しない	14	58.6	22.0	
家族とよく話しをする	よくする	336	69.7	22.1	p=0.004
	普通	424	65.2	21.0	
	しない	22	59.1	23.5	
趣味の有無	あり	529	68.2	21.8	p=0.046
	なし	176	64.4	22.6	
若い時の地域の集まりへの参加	集まりへの参加が好きだった	613	68.1	21.3	p=0.004
	一人の方が好きだった	142	62.4	23.1	
経済	苦勞している	104	54.7	23.1	p=0.000
	どちらともいえない	447	65.2	20.1	
	苦勞していない	233	75.6	20.8	

\*p<0.05

## 3. 生活満足度 (VAS) についての理由

生活満足度 (VAS) の線上のある箇所に印を付けた理由について「何故そのように思われるのかご自由にお書き下さい」と記し説明を求めた。このようにして得られた内容について、満足度の理由を分類した。分類するに当たって複数の理由を記述していた場合には、理由ごとに一つずつ分けて分類した。一つの理由を1ポイントとして分類

項目ごとにポイント数を算出した。

記述された理由は全部で760ポイントあった。最終的に集約された分類項目の中で多かった順に以下に説明する。最も多かった理由は「自分や家族の健康に関わる内容」であり、①自分が健康である②家族が健康である③自分と家族が健康である、④健康で働ける、働ける⑤健康なので趣味や旅行が楽しめる⑥家族全員が元気で働いているなどであった。

第2位が、「満足度は自分の考え方によるなどの価値を伴う内容」であり、①満足度はその人により考え方が違うがまああの人生だったから②若いとき頑張ったから今は報われて幸せ④多少不足があるほうが頑張れるので〇〇の程度の満足であると記していた。

第3位は「自分と家族と家族の病気に関わる内容」であり、①自分が病気である、②家族が病気である③自分と家族が病気であるなどがあげられていた。

第4位は「家族との関係や家庭生活に関わる内容」であり、①家族と仲良く生活できること、②家族が心配してくれたり、協力してくれるまたは不和であることなどであった。

第5位、「趣味や楽しみができることに関する内容」であり、①旅行ができる、②夫婦で楽しみを見つけている③趣味の会に参加できる④クラス会・同窓会に参加できることなどがその具体的理由に挙げられていた。そのほか地域活動やボランティア活動、経済的豊かさ、仕事を持っていることなどが理由にあげられていた。

さらに、性別や年齢、満足度の程度による理由の相違について分析を行った。その詳細については本報告の後ろの資料に記してある。興味深い結果が得られたので是非ご覧頂きたい。

#### 4. 地域活動をしていない老年者の生活満足度 (VAS) の比較

次に、社会参加を行っていない老年者がどのようにQOLを保っているのか、その影響する要因を明らかにするために、地域活動の一つも行っていない老年者について、生活満足度 (VAS) が75点以上の高い群59人と、50点以下の低い群58人

に比べて比較検討した。

##### 1) 家族と生活状況 (表7)

満足度の「高群」と「低群」との間には年齢、性別による差がなく、孫の有無によっても差がなかった。しかし両群間に配偶者の有無による差が認められ、配偶者ありが「低群」86.5%であり、「高群」の63.8%に比べ「低群」に配偶者のあるものが多かった ( $p=0.008$ )。両群間に健康や運動の実施の有無による差がなく、睡眠時間が6時間以下のものが「高群」では10.2%、「低群」では29.6%であり、「低群」に睡眠時間の短いものが多かった ( $p=0.016$ )。活動指数 (TMIG) は両群ともに11点以下、12点以上が各々半数近くあった。会話や聴力障害の有無による差はなかった。

表7 地域活動不参加者の生活満足度 (VAS) と家族・生活状況 満足度の違いによる比較

		生活満足度 (VAS) 得点		合計 人(%)	
		75点以上 人(%)	50点以下 人(%)		
性別	男性	27(45.8)	31(54.4)	58(50.0)	
	女性	32(54.2)	26(45.6)	58(50.0)	
配偶者の有無	あり	37(63.8)	45(86.5)	82(74.5)	$p=0.08$
	なし	21(36.2)	7(13.5)	28(25.5)	
孫との同居の有無	あり	30(51.7)	27(51.9)	57(51.8)	
	なし	28(48.3)	25(48.1)	53(48.2)	
健康である	はい	27(50.0)	32(60.4)	59(55.1)	
	いいえ	27(50.0)	21(39.6)	48(44.9)	
定期的な運動習慣	はい	9(18.0)	13(27.1)	22(22.4)	
	いいえ	41(82.0)	35(72.9)	76(77.6)	
睡眠時間	6時間	6(10.2)	16(29.6)	22(19.5)	$p=0.016$
	7~8時間	50(84.7)	33(61.1)	83(73.5)	
	9時間以上	3( 5.1)	5( 9.3)	8( 7.1)	
活動指数(TMIG)	11点以下	28(50.0)	30(54.5)	58(52.3)	
	12点以上	28(50.0)	25(45.5)	53(47.7)	
合計		59(100.0)	58(100.0)	117(100.0)	

注)未記入者は除いて%を表示した。

##### 2) 家庭の中の役割 (表8)

表8 地域活動不参加者の生活満足度 (VAS) と家庭内での役割 満足度の違いによる比較

		生活満足度 (VAS) 得点		合計 人(%)
		75点以上 人(%)	50点以下 人(%)	
家事	なし	28(48.3)	31(55.4)	59(51.8)
	あり	30(51.7)	25(44.6)	55(48.2)
畑仕事	なし	25(43.1)	24(42.9)	49(43.0)
	あり	33(56.9)	32(57.1)	65(57.0)
庭仕事	なし	21(36.2)	26(46.4)	47(41.2)
	あり	37(63.8)	30(53.6)	67(58.8)
家族の相談役	なし	37(63.8)	43(76.8)	80(70.2)
	あり	21(36.2)	13(23.2)	34(29.8)
孫の世話	なし	47(81.0)	45(80.4)	92(80.7)
	あり	11(19.0)	11(19.6)	22(19.3)
役割	なし	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)
	あり	58(100.0)	58(100.0)	114(100.0)
合計		59(100.0)	58(100.0)	117(100.0)

注)未記入者は除いて%を表示した。

家事や畑仕事等は両群とも約半数のものが役割を持っており両群に差がなかった。庭仕事や孫の世話についても両群間で差がなかった。役割のないものは両群共にいなかった。家庭内の役割に関しては両群間に差が認められなかった。

### 3) 交流と経済状況 (表9)

親しい友人や近所の人との交流の程度には両群間に差がなかった。しかし家族との交流については、「高群」によくすると回答しているしているものの47.5%、普通49.2%であり、「低群」のよくする26.3%、普通64.9%に比べ、「高群」によく話すものの割合が高かった ( $p=0.046$ )。夕食を共にする人数が「高群」では3~4人、32.1%、5人2人、28.8%、5人以上26.8%の順に多かった。「低群」では2人が37.0%と最も多かったが両群間に有意な差は認められなかった。趣味については両群とも半数近く趣味を持っているものがあった。若いときに集まりに参加するのを好まず、一人の方が好きだったものは「高群」に比べ「低群」に多い傾向があった ( $p=0.092$ )。

経済状態は「高群」では苦勞しているが8.8%と少なく、苦勞していない42.1%であったが、「低群」では苦勞しているものが35.7%と多く、苦勞していないものは10.7%と少なかった ( $p=0.000$ )。

表9 地域活動不参加者の生活満足度 (VAS) と交流・経済 満足度の違いによる比較

		生活満足度 (VAS) 得点		合 計 人(N)	
		75点以上 人(N)	50点以下 人(N)		
友人や近所の人とよく話しをする	よくする	24(40.7)	15(25.9)	39(33.3)	
	普通	33(55.9)	38(65.5)	71(60.7)	
	しない	2( 3.4)	5( 8.6)	7( 6.0)	
家族とよく話しをする	よくする	28(47.5)	15(26.3)	43(37.1)	$p=0.046$
	普通	29(49.2)	37(64.9)	66(56.9)	
	しない	2( 3.4)	5( 8.6)	7( 6.0)	
夕食を食べる時の人数	1人	7(12.5)	7(12.2)	14(13.7)	
	2人	16(28.6)	17(37.0)	33(32.4)	
	3~4人	18(32.1)	8(17.4)	26(25.5)	
	5人以上	15(26.8)	14(30.4)	29(28.4)	
趣味の有無	あり	27(52.9)	26(55.3)	53(54.1)	
	なし	24(47.1)	21(44.7)	45(45.9)	
若い時の地域の集まりへの参加	集まりへの参加が好きだ	43(78.2)	33(62.3)	76(70.4)	$p=0.092$
	一人の方が好きだ	12(21.8)	20(37.7)	32(29.6)	
経済状態	苦勞している	5( 8.8)	20(35.7)	25(22.1)	$p=0.000$
	どちらともいえない	28(49.1)	30(55.5)	58(51.3)	
	苦勞していない	24(42.1)	6(10.7)	30(26.5)	
合 計		59(100.0)	58(100.0)	117(100.0)	

注)未記入者は除いて%を表示した。

## IV. 考 察

本研究は老年者のQOLの要因について調査し、さらに社会活動に消極的な老年者のQOLについて、QOLの高い者と低い者を比較検討することによりその特徴を分析した。

### 1) 老年者の特徴

基本健診受診者を対象としたことから、本研究の対象者は60歳代が多く、活動能力は平均11.6点と高く、古谷野<sup>6)</sup>らが全国の在宅老年者を調査した結果の平均10.8点に比較しても活動能力が高かった。さらに地域活動も活発であり、何らかの家族内役割を持っている、そして近所や家族内の交流も活発な老年者像を示していた。

### 2) 生活満足度とライフスタイル

生活満足度 (VAS) は平均67.5点であり、肯定的なものが多かった。生活満足度 (LSIK) との相関が0.43であり、中程度の相関であった。LSIKは「人生全体についての満足感」「老いについての満足感」「心理的安定」について測定しており<sup>7)</sup>、老年者自身の考え方や老いに対する姿勢を問うていたが、VASの点数は生活全体の満足度を問うている。その結果、理由の自由記載に示されたように、家族の仲がよいこと、家族が健康であることなどのように、家族が問題なく生活することを理由とする内容が多かった。この相違がLSIKとVASの相関を低下させていたと考えられる。

VASに差のあった因子は健康自己評価、経済、人との交流、地域活動への参加などこれまで生活満足度に影響しているとされている因子<sup>3-5)</sup>が本調査においても満足度と関連があったことが確認された。年齢や活動能力が生活満足度に影響すると言われているが、本調査の結果ではこれらの因子には差が認められなかった。これは本調査の対象者が活動性の高い比較的元気な老年者が多かったためと考えられる。地域活動のなかで、町内会・婦人会や老人クラブ、生産者に関する会等の地域に根付いた活動よりも、講習会への参加や趣味の集まりなど、本人の意思で選択できる活動に参加するものの満足度が高かった。大東町は生涯学習としての各種講習会が活発であり、参加度が

高い<sup>8)</sup>ことからこれらの活動が効果を奏していると考えられる。孫との生活や孫の世話をすることなど、孫との生活が満足度に影響していた。大東町は3世代家族が多い地域ではあるが、年々一人暮らしや夫婦のみの世帯が増加している<sup>9)</sup>ことから、今後子供と触れあう機会が少ない高齢者が増加すること考えられるため、子供と触れあう機会を設定する必要が示唆された。

### 3) 地域活動に参加しない高齢者の満足度

地域活動に参加しない高齢者に限って、満足度の高いものと低いものを比較した。その結果満足度の高いものは低いものに比べ、経済状態が良く、配偶者はないものが多かったが、家族内のコミュニケーションが良い者が多かった。このような結果は地域活動に参加していない高齢者の場合には、近隣との関わりよりも、家族のなかのコミュニケーションが重要であること、そしてそれを支える経済的余裕が重要であることを示している。満足度の自由記載の理由の中でも家族について取り上げているものが多かったことから家族が満足度に非常に強い影響を持つことが明確になった。そして、満足度の高い高齢者も低いものも、地域活動として趣味の集まりには参加しないが、個人的に趣味を持つものが半数以上いたことが注目される。

自由記載から健康が満足度の理由として最も多かったことから、健康増進や予防活動の重要性が確認された。さらに家族関係が満足度に強い影響を持っていたことから、家族全体を視野に入れた保健活動が重要である。

### 4) 今後の課題

今年度は基本健康診査受診者を対象として調査を行ったので、地域活動に参加しない高齢者は少く、比較的活動的な人たちであった。健診未受診者は移動や歩行が困難な者が多く家に閉じこもりがちな高齢者が多いと考えられるため、来年度は未受診者への調査を行い、地域活動に参加しない、閉じこもりがちな高齢者について継続して検討して行く予定である。

## V. 結 論

本調査により、大東町における活動能力の高い高齢者の生活満足度に影響している生活状況を示すことができた。地域活動のなかで、各種の講習会への参加や趣味の集まりなど、本人の意志で選択できる活動に参加するものの満足度が高かった。生活満足度が高く、3世代家族が多い大東町では、高齢者本人の状況と同じ様に、家族の状況が満足度に影響していた。地域活動不参加者については配偶者があっても、家族内の交流の密度が低い、睡眠時間の短い、経済的余裕のない高齢者のQOLが低下していることから、地域活動不参加者の家族内交流の促進が課題となった。

### 引用文献

- 1) 奥野茂代：Ⅲ長寿を生きる社会生活の条件，老年看護学Ⅰ，廣川書店，88，1999，東京。
- 2) 下仲順子：13章高齢者の主観的幸福感と社会参加，老年心理学，培風館，140，1977，東京。
- 3) 藤田利治、大塚俊男、谷口幸一：老人の主観的幸福感とその関連要因，社会老年学，75-85，29，1993。
- 4) 松本公蔵、木村茂昭、野田智子ほか：“Visual Analogue Scale”による高齢者の「主観的幸福度」の客観的評価Ⅱ—ライフスタイルならびに認知・行動機能との関連—，日老医誌，29，817-821，1992。
- 5) 須貝孝一、安村誠司他：地域高齢者の生活全体に対する満足度とその関連要因，日本公衛誌，43（5），374-388，1997。
- 6) 古谷野亘：Series11 老年精神医学領域で用いられる測度，QOLなどを測定するための測度(1)，老年精神医学学会誌，7(3)，315-321，1996。
- 7) 古谷野亘：Series11 老年精神医学領域で用いられる測度，QOLなどを測定するための測度(2)，老年精神医学学会誌，7(4)，431-441，1996。
- 8) 平成9年度保健事業報告書：大東町役場，36-40，1998。
- 9) 大東町保健計画，10，平成8年3月，大東町，1996。

## 資料

### 大東町健康調査

#### 満足度の理由に関する自由記載の分析

##### I. 対象

1. 対象数：409名（男性172名 女性236名）

2. 年齢： 50代 1名（除外）  
60代 229名（男性 79名 女性 150名）  
70代 153名（男性 79名 女性 74名）  
80代以上 26名（男性 14名 女性 12名）  
90代以上 0名

##### II. 記載内容分析

###### 1. 分析方法：

- ・満足度の理由について記載されている内容を分析した。
- ・複数の記載は1理由を1ポイントとして総計760ポイントを分析した。

但し、例えば「健康」「家族」等のように単語として記載されている内容は除外した。

###### 2. 分析の視点：1) 満足度の理由の多少

2) 1) についての特徴

3) 性別による相違

4) 年齢による相違

5) 満足度の高低による特徴

（基準：高い－85以上 低い－50以下）

##### III. 分析結果

###### 1. 満足度の理由の多少について

満足度の理由をポイントの高い順位からあげると以下であった。

- 1位－自分、家族の健康に関わる内容 134ポイント(17.6%)
- 2位－満足度は考え方によるなどの価値を伴う内容 90ポイント(11.8%)
- 3位－自分と家族と家族の病気に関わる内容 59ポイント(7.7%)
- 4位－家族との関係や家庭生活に関わる内容 55ポイント(5.7%)
- 5位－趣味や楽しみができることに関わる内容 41ポイント(5.3%)

ついで6位が地域活動やボランティア活動、7位はいろいろしたいができない、8位が経済的豊かさ、9位が仕事を持っていることなどであった。これらの内容をさらに大きなまとまりでみると、身体的健康や病気などの、いわゆる健康に関わると思われる理由が224ポイントあり、満足度は考え方や受け止め方により異なるとする価値に関わる理由が90ポイントであった。さらに家族や家庭円満・不和など家族・家庭に関わる理由が66ポイント、趣味や楽しみができる・できないなどの趣味・楽しみなどの活動に関わる



理由が61ポイントであり、ついで経済的豊かさ・貧しさなどの経済に関わる理由が31ポイントであった。

## 2. 1の満足度の理由の特徴について

満足度の理由の特徴として大きくは積極的な理由と消極的な理由に分類でき、各々の内容と順位は以下であった。

### <積極的理由>

(1) 健康に関わる理由 ①+②+③+④+⑤+⑥=134ポイント

①+③+⑤=69ポイント

①自分が元気、または健康である 64ポイント

②家族が健康である 31ポイント

③健康で働けること、または動けること 22ポイント

④自分と家族が健康である 13ポイント

⑤健康なので趣味や旅行が楽しめる 3ポイント

⑥家族全員が元気で働いている、学校へ行っている 1ポイント

(2) 価値に関わる理由 ①+②=90ポイント

①満足度はその人により違う 54ポイント

①の内容には以下を含む

- ・考えにより満足度は変わる
- ・多少不足があるほうががんばれるのでは
- ・若いときは頑張ったから報われて今は幸せ

②・可もなく不可もなく 36ポイント

②の内容には以下を含む

- ・まあまあだったから
- ・普通だから

(3) 家族に関わる理由 ①+②+③=44ポイント

①家族と仲良く生活できること 19ポイント

①の内容には以下を含む

- ・関係がうまくいっている
- ・家の中が平和、楽しい
- ・安泰

②家族が良くしてくれる 19ポイント

②の内容には以下を含む

- ・心配してくれる
- ・理解してくれる
- ・愛されている

③家庭円満 6ポイント

(4) 趣味・楽しみに関わる理由 41ポイント

①旅行ができた

②夫婦で楽しみをみつけている

- ③短歌、句会に参加している
- ④クラス会、同窓会に行って楽しかった
- (5) 地域活動・ボランティア活動に関わる理由 22ポイント
- ①人の世話ができる、またはしている
- ②地区の役員をしている
- ③地区住民として役割を果たしている
- (6) 経済に関わる理由 21ポイント
- ①経済的にも心配ない
- ②まあまあだが不足をいえばきりが無い
- ③年金生活だがそれなりに生活もできている
- (7) 仕事に関わる理由 20ポイント
- ①この年齢になっても勤められていること
- ②畑・農作業を営んでいること
- (8) 過ごし方に関わる理由 17ポイント
- 好きなように、思ったように過ごしている
- (9) 同居に関わる理由 16ポイント
- 息子、または娘夫婦と同居しているから
- (10) 家庭内に役割が有ることに関わる理由 14ポイント
- ①介護をしている
- ②孫の世話をしている
- ③家族のために食事、野菜作りなどをしている
- (11) 子供の自立、孫の成長に関わる理由 13ポイント
- ①息子が嫁をもらった、娘が嫁いだ
- ②待望の孫が生まれた
- ③子供を大学までだして結婚し孫も多数
- <消極的な理由>
- (1) 病気、老化、体調不良に関わる理由 ①+②+③+④+⑤+⑥=59ポイント  
①+②+③+④=42ポイント
- ①自分が病気 18ポイント
- ①には以下の内容を含む
- ・胃の調子が悪い
  - ・風邪が長引いて体調が悪い
  - ・ぎっくり腰、腰痛
  - ・骨折
- ②家族が病気 19ポイント
- ②には以下の内容を含む
- ・母の骨折
  - ・夫や息子の病気
  - ・母が痴呆
  - ・夫の事故後遺症

③家族が体調不良 3ポイント

④自分と家族が病気 2ポイント

⑤老化 11ポイント

⑤には以下の内容を含む

・年齢のせいで思うように動けない

・疲労が著しい

⑥健康不安 6ポイント

(2) したいことがあるができないに関わる理由 21ポイント

①勤めが忙しく時間がない

②畑仕事や農作業が忙しい

③家の仕事を優先すると自由な時間がない

(3) 家族不和に関わる理由 11ポイント

①意見の衝突が度々ある

②孤立している

③暮らし方が異なる

④同居しているので云いたいこともいえない

⑤家族の食事づくりに頭が痛いことがある

(4) 経済的困窮に関わる理由 10ポイント

①無職で余裕がない

②年金暮らしで生活が楽でない

③義母が老人病院に入り経済的負担大きい

④失業や不作に伴う収入減

(5) 息子、娘が未婚、子供、孫がいない 9ポイント

(6) その他

①これまでの人生に不満 5ポイント

②夫や息子の死 4ポイント

③一人暮らしが不安 4ポイント

④人間関係の苦勞 3ポイント

⑤一人での農作業はきつい 3ポイント

次いで、作物が不良、家屋、土地の管理が出来ない、老化は寂しい、相談相手がない、後継者がいないなどである。

積極的、消極的理由の特徴としてはそれぞれ表、裏として挙げられていることが理解できる。例えば健康に関わることでは、健康か不健康か、体調が良いか悪いかなどである。

消極的理由には挙がってこなかった内容として満足度に関わるのは考え方や受け止め方などとする価値に関わることであり、これは積極的な理由の重要な特徴といえる。

### 3. 性別による相違について

#### < 男性の理由 >

積極的・消極的理由をポイントの高い順位からあげると以下であった。

(1) 積極的な理由

- ①健康に関わる理由 51ポイント
  - ②価値に関わる理由 32ポイント
  - ③家族に関わる理由 14ポイント
  - ④趣味、旅行、楽しみに関わる理由 13ポイント
  - ⑤経済性に関わる理由 11ポイント
  - ⑥仕事に関わる理由 11ポイント
  - ⑦同居に関わる理由 10ポイント
- ③+⑦=24ポイント

(2) 消極的な理由

- ①自分、または家族の病気に関わる理由 10ポイント
- ②政治、社会情勢等に対する不満に関わる理由 5ポイント
- ③老化により思うように出来ないことに関わる理由 5ポイント
- ④健康不安に関わる理由 5ポイント
- ⑤仕事、農作業等の多忙に関わる理由 5ポイント

< 女性の理由 >

(1) 積極的な理由

- ①健康に関わる理由 75ポイント
  - ②家族に関わる理由 36ポイント
  - ③価値に関わる理由 30ポイント
  - ④趣味、旅行、楽しみに関わる理由 28ポイント
  - ⑤友人や地域の人々との触れ合いに関わる理由 16ポイント
  - ⑥経済性に関わる理由 14ポイント
  - ⑦子供の自立、孫の成長に関わる理由 14ポイント
  - ⑧仕事に関わる理由 11ポイント
  - ⑨同居に関わる理由 7ポイント
- ②+⑨=43ポイント

(2) 消極的な理由

- ①自分、または家族の病気に関わる理由 16ポイント
- ②思うように出来ない、動けないに関わる理由 7ポイント
- ③日々が多忙で時間的余裕が不足等に関わる理由 6ポイント
- ④疲労に関わる理由 6ポイント

顕著な男女の相違といえる理由があるとはいえない。また、家族に関わる理由が男性と女性では順位が異なるが、同居していることを加えると大きな相違とは云えない。しかし、女性のほうが家庭内においてその役割、あるいは子供や孫の存在が身近、または直接関わる機会が多いためか、子供の自立や孫の成長を満足の理由として高いポイントを示した。さらに、日常的に地域や近隣、あるいは友人との関係が深いことや必要性と関わっているためか友人や地域の人々との触れ合いに高いポイントを示していた。

男性ではポイントとしては低いが消極的な理由として政治や社会に対する理由が挙げら

れているのが特徴的であった。

#### 4. 年齢による相違について

##### < 60代 >

- ①健康に関わる理由 71ポイント
- ②価値に関わる理由 33ポイント
- ③家族に関わる理由 29ポイント
- ④趣味、旅行、楽しみに関わる理由 26ポイント
- ⑤自分、または家族の病気に関わる理由 17ポイント
- ⑥思うように動けなくなった等に関わる理由 15ポイント
- ⑦仕事に関わる理由 14ポイント

##### < 70代 >

- ①健康に関わる理由 42ポイント
- ②価値に関わる理由 24ポイント
- ③家族に関わる理由 21ポイント
- ④友人や地域の人々との触れ合いに関わる理由 14ポイント
- ⑤経済性に関わる理由 12ポイント
- ⑥自分、または家族の病気 12ポイント
- ③+同居 11ポイント = 33ポイント
- ⑥+老化による衰え 7ポイント = 19ポイント

##### < 80代 >

- ①健康に関わる理由 9ポイント
- ②家族に関わる理由 5ポイント
- ③価値に関わる理由 4ポイント
- ④政治、社会情勢に関わる理由 4ポイント

年代による特徴はポイントの高い順では大きな差異はない。しかし、60代では⑥の内容に「仕事で精一杯で時間的余裕がない」が含まれている。また、次点の理由として「年金生活になり経済的ゆとりがない」が9ポイントであり、これらのことからそれまでの身体が動いていた前年代や仕事に見合った経済状況などと現在を比較して評価している傾向がみえる。70代では同居も含めた家族に関わる理由、老化、病気に関わる理由が60代、80代からみてポイントが高くなっている。すなわち、自己の現実への対応や認識によった傾向性といえるのではなかろうか。80代は対象数が少なく比較が困難であった。

#### 5. 満足度の高低による特徴について

##### < 満足度85以上の理由 > 対象：152名

- ①健康に関わる理由 63ポイント
- ②家族に関わる理由 28ポイント
- ③価値に関わる理由 25ポイント
- ④趣味、旅行、楽しみに関わる理由 23ポイント

- ⑤経済性に関わる理由 18ポイント
- ⑥好きなことが自由にできる等に関わる理由 13ポイント
- < 満足度50以下の理由 > 対象：105名
- ①価値に関わる理由 20ポイント
- ②自分、または家族の病気に関わる理由 16ポイント
- ③健康不安に関わる理由 12ポイント
- ④趣味、旅行、楽しみができないに関わる理由 15ポイント
- ⑤老化により思うように出来ないに関わる理由 12ポイント
- ⑥経済不安に関わる理由 6ポイント

満足度の高低による相違は当然ながら満足度の高い者は積極的理由があげられており、低い者は消極的理由があげられている。しかし、満足度の高低では1で記載した満足度の理由と同様の結果であり、大きな特徴はみられなかった。

満足度は高いがその理由として消極的な内容もみられ、その内訳は政治、社会情勢、若い人への不満等が3ポイント、老化することは寂しいことが3ポイント、長男に嫁がないこと2ポイント、その他1ポイントづつながら挙げられている。そのいずれも満足度95から85の間にあり「言わせてもらえれば多少は有る」の範疇で記載されていることが予測された。また、満足度が低いながらも満足度を左右するのは個人の価値判断として高いポイントを示しているのは調査対象者のバランス感覚と云えるのではないだろうか。

満足度が特に低い10から5の度数ながら積極的な理由をあげているの者も多かったがこれについては記載の手続きを十分に理解していないことも予測され今後の課題と云える。